

一八八六年三月十一日(木)

コシポールの別荘でナレンドラたちと共に

ナレンドラにジニョーナ智識のバクテイヨーガと信仰のヨーガに関する教訓

タクール、聖ラーマクリシュナはコシポールの別荘の二階の広間に信者たちといらつしやる。夜の八時ころ。部屋にはナレンドラ、シャシー、校長、年長のゴパール、シャラトがいる。今日は木曜日、ファルグン月二十八日、ベンガル暦一二九二年、ファルグン月の白分六日目。一八八六年三月十一日。タクールは病床で横になつていらつしやる。信者たちがそばに坐つている。シャラトは立つて扇いでいる。タクールは病氣の話をなさる。

聖ラーマクリシュナ「ボラナートのとこへ行けば(マッサージ用の)油をくれるよ。そして、使い方を教えてくれる」

年長のゴパール「それでは明朝、私どもが行つていただいてまいりましょう」

校長「誰か今日、行ける人はいませんか？」

シャシー「私が行けますよ」

聖ラーマクリシユナ「(シヤラトを指して)——あれが行けるよ」

やがてシヤラトは、南神寺ドツキネーシヨルの事務員、ボラナート・ムコバッタエのところに油をもらいに出かけた。

タクールは横になっていらっしやる。信者たちは静かに坐っている。と、タクールは突然起き上がったお坐りになった。ナレンドラを名指して話をはじめられた。

聖ラーマクリシユナ「(ナレンドラに)——ブラフマンは何の汚れもない。そのなかに三つのグナがあるが、ブラフマンは汚されない。

空気のなかがいい匂いや悪い臭いがただよっていても、空気そのものとは関係ない。それと同じことだ。カーシー(ベナレス)でシヤンカラアトキヤリヤ大師アトキヤリヤが道を歩いていなすった！そこへ賤民チヤンダラが肉チヤンダラをかついで通りかかり、ひよつと大師アトキヤリヤに触れてしまった。シヤンカラはおっしゃった——『きさま、さわったな！』すると賤民チヤンダラは、『タクール、あなたも私にさわりませんよ！私もあなたにさわりませんよ！アトマンは何ものにも汚されません。あなたは、その清浄無垢なアトマンでいらっしやる』

ブラフマンとマヤージニヤニ。智者はマヤーを捨てる。

マヤーはボールのようなものだ。ホラ、ごらん、こうやってタオルをかぶせてしまえばランプの光は見えなくなる」

タクールはタオルをご自分と信者たちの間に垂たらせた。そして——「ホラ見ろ、わたしの顔が見えなくなるだろう。

ラームブラサードが言ったように、蚊帳カカヤを引きあげ、いざ見よや。

ところが信仰者^{バクタク}は、マージャーを除けてしまわない。マハーマージャー(ドウルガーヤカーリー)をお祀り^{まつ}して拜む。すべてを明け渡して祈る『マー、ちょっと道をよけて下さい。あなたが道をあけて下さるとブラフマン智^{ジニヤニ}が得られますので……』と言つて——。目覚めている状態、夢を見ている状態、それから熟睡している状態——この三つの状態をすべて、智者は一まとめにして片付けてしまう！ 信仰者^{バクタク}はこういう状態をみんな受け入れる。私^ワがある間はすべてがあるんだから——。

私^ワがある間は、あの御方がマージャーにも、生物世界にも、二十四の宇宙原理にも、すべてになつていなさるのだと観^みているんだよ！

ナレンドラたちは沈黙している。

聖ラーマクリシュナ「マージャーの理論は、無味乾燥^{クダ}だ。何と言つたか、言つてごらん」

ナレンドラ「無味乾燥」

タクルはナレンドラの手や顔をさわり始められた。さわりながらお話しになる——「これ(ナレンドラの顔や手)はみんな信仰者^{バクタク}の特徴^{シヨニ}だ。智者の特徴はこれとはちがつて——顔付きも姿も乾いている。

智者は智識を得てからも、明知現象^{ツクシヤニヤ}を持つて暮らすことができる。——信仰^{バクタイ}と、慈悲^{ダヤ}と、離欲^{ヴァイラギヤ}と——こういうものを持つて暮らすことができる。これには二つ目的がある。一つには人々を導き、それから真理^{アムリタ}の甘露^{アムリタ}を味わうためだ。

智者が三味を経験しても、黙つていたら人を導くことはできない。だからシャンカラ大師^{アトチャリヤ}は、明知の私^ワを残しておきなすつた。

それから、神の喜びを味わうために——楽しむために——信仰と信者仲間をもって暮らすんだよ！
 この〃明知の私〃、〃信者の私〃は持つていても害はない。〃ナラズ者の（悪い）私〃を持つていると、大そう害になるんだよ。あの御方に会ったあとは子供のような性質になる。〃子供の私〃も、ちつとも害にならない。鏡に映っている顔のようなもので、人の悪口を言ったりしない。燃え切った縄は繩の格好をしてはいるが、ブツと吹けばとび散ってしまう。智識の火で自我が燃え尽きているんだ。もう誰も傷付けることはできない。名ばかりの〃私〃だ。

永遠不変ニテイヤに行き着いてから、また戻って変化活動リョウカクドウで暮らすんだよ！ あつちの岸へ渡つてみて、またこつちの岸へ来るようにさ。人に教えたり、遊んだり、楽しんだりするためにね」

タクールは実にやさしい声でお話しになって、また少しの間沈黙された。こんどは信者たちに向かって話される——

「体はこんなに病気だけれど、だが、無明アブミョウの迷いは残っていないよ！ 見てくれ。わたしはラームラルのことも、家のことも、妻や家族のことも、ちつとも心がない！——カーヤスタ（高位のカースト）のプールナだけが気にかかっている。——彼らのことはちつとも心配してないよ！

あの御方が、（わたしの中に）明知現象ツチカエマキマキを残しておいて下さったのだよ——人びとのために——信者たちのために。

でも、明知現象ツチカエマキマキが残っていると、またこの世に来なくちゃならない。アヴァターラたちは明知現象を残しておくんだよ！ ちよつとした欲があつてもこの世に来なけりゃ——何度も何度も戻つて来

なけりやいけないんだ。欲が全くなくなったとき、ほんとの解脱だ。しかし信仰者は、それを望まない。もし誰かがカーシー（ベナレス）で死ねば、解脱してもう戻つて来なくてもよくなる。智者は、この解脱が理想なんだよ」

ナレンドラ「先日、僕たちはマヒマー・チャクラバルティのところへ行きました」

聖ラーマクリシュナ「（ニコニコして）それで？」

ナレンドラ「あの人みたいな無味乾燥な智者は見たことがありません」

聖ラーマクリシュナ「ハッハッハッハ、どういふことだったのさ？」

ナレンドラ「僕たちに歌をうたえと言うんです。ガンガーダルが歌いました——」

シャーマ（クリシュナ）の名を聞いて

息ふき返したラーダの

目の前に立つは黒いタマラの樹

.....

そうしたら、彼はこの歌を聞いてこう言うのです。『何だい、この歌は？ 愛とか恋とか言うものは好かんね。それに、私のところには妻も子もいるんだよ。なんでこんな歌をうたうんだね？』

聖ラーマクリシュナ「（校長に）——見てごらん、どんなに恐れているか」